

フォレスター候補者の活動状況と今後の展望

○大石 卓史・田村 典江（自然産業研）・枚田 邦宏（鹿児島大）
・奥山 洋一郎（愛媛大）・小川 繁幸（自然産業研）

はじめに

日本型フォレスターは地域の森林・林業の牽引者となることが期待される人材であり、平成 25 年度からの認定開始に向け、平成 23 年度からは都道府県や国の技術系職員等を対象とした研修（准フォレスター研修）も開始されたところである。これら日本型フォレスターの候補者である都道府県職員等を対象に、現在の活動状況や各種資質の獲得状況等を明らかにし、今後の展望について考察を行うことを目的とする。

調査方法

平成 23 年度に准フォレスター研修を受講した都道府県職員（准フォレスター）や、各都道府県において准フォレスター研修の統括役を担った職員を対象に、平成 23 年 11 月および平成 24 年 2 月にアンケート調査（E-mail にて調査票を配付・回収）を実施した。あわせて、試行的なフォレスター活動を実施した全国 11 の道府県を対象に、インタビュー調査や活動記録の分析を実施した。

結果と考察

個別の准フォレスターについて見ると、平成 23 年度は、准フォレスター研修への参加と市町村森林整備計画の一斉変更の対応に追われた面が強い。市町村職員への支援内容としては、関連情報の収集・整理や計画策定業務の支援が重視される傾向が見てとれた（特にゾーニングの検討・設計や森林 GIS の活用等）。都道府県と市町村の担当者間で顔の見えるつながりができた点は、成果であるといえよう。

一方、准フォレスターの業務形態（専任/兼務）、配置、サポート体制、そして、関連業務の実施方針（市町村森林整備計画の合意形成支援、森林経営計画の目標設定や合意形成支援、フォレスター育成のための実施事項等）については、都道府県毎にその実施方針や内容の差が大きくなった。

フォレスター候補者の資質については、フォレスターとしての姿勢・心構えの保持は一定程度見られるものの、「木材生産（機械、作業システム、路網）」や「木材流通」等の各技術、「総合的な視点から構想を描く能力」や「関係者との信頼関係を築くための合意形成、コミュニケーション能力」等については、今後強化すべきとの意見が多く見られた。

フォレスターの活動体制の整備や資質向上のための各種取り組みの進展が期待される。

引用文献

- (1) 株式会社自然産業研究所『平成 23 年度フォレスター、森林施業プランナー育成対策事業 フォレスターの活動体制・育成研修プログラムの改善等 報告書』2012 年

（連絡先：大石 卓史 oishi@ri-nc.co.jp）